

山形教区報

発行 天理教山形教務支庁 〒 994-0027 天童市桜町 11 番 1 号
TEL 023-656-8420 FAX 023-656-8425
編集 広報部 E-mail y_kohobu@yahoo.co.jp

立教 188 年

9 月号

第 169 号

創意工夫を凝らし支部活動の活性化を

中央支部長 川 正敏



今年 4 月から中央支部長の任を頂き、務めさせて頂いております。私は、上山市の東部分教会で生まれ育ちましたが、次男ということもあり、お道への関わり方としては必要最小限といった感じていたが、今から 9 年前、前会長の兄の後を引き継ぐ形で、教会長を拝命しました。拝命後は、母やようぼくの相次ぐ出直し、コロナ禍などのふしを頂きましたが、教会に繋がる方々のお力添えを頂きながら、何とか乗り越えさせて頂きました。ただ、教会に起居する者が私一人となり、教区や支部活動への参加は次第に限られたものになりました。また、教祖百四十年祭の年祭活動も、自教会の現実的な問題に気をとられ、身の入らないものとなっていました。

そうした中、今年初めに当時の高橋惣一支部長先生や中森芳郎主事先生より、支部長就任のお話を頂きました。「お道の御用は素直に受けるのが良い」と聞かせて頂きますが、自身の現状を考えると、直ぐには「はい」とお答え出来ませんでした。ただ、様々に思案をさせて頂くうちに、この時旬に頂いたこのお話は、親神様、教祖が、年祭活動も十分に出来ない私にお与え下さった最後の機会ではないかと悟り、お受けすることに致しました。大変重い御用に、このような至らぬ者が就き、皆様にはご心配やご迷惑をおかけすることになるかと存じますが、ご協力頂きますようお願い致します。

支部活動については、当支部は南は上山市から北は真室川

町までの広い地域を抱えています。ここに教会が 24ヶ所あり、また教務支庁もあります。教会数や施設という面では、他支部に比べて随分と恵まれた環境にあると思いますが、幾つかの教会では、関係者の高齢化や後継者問題などにより活動が困難な状況にあり、そのような教会はこの先々、増えていくことが予想されます。こうした教会の活動継続の上に、支部として何かに力になれるような対応が必要であると思いますが、特に、近隣の教会同士の繋がりが重要ではないかと考えます。

また、支部内には教会のない自治体もあり、そうした地域へ向けて積極的なおいがけを行うことが大切であると思います。更には、所属教会から離れ、当支部内に転居してきたようばく信者の方々への信仰活動の手助けも大切であり、そうした方々や若者に対しては「教区・支部情報ねっと」を始め、SNS などを活用した働き掛けが出来ればと思っています。

最後に年祭活動についてですが、ようぼくや信者さん方にも「全教会布教推進月間」や「全教一斉にをいがけデー」などを通して、身近な方への声掛けやリーフレット配布を行うなど、一人でも多くの方々に集働して頂きたいと思っています。そして、11月2日開催の第5回「ようぼく一斉活動日」は、年祭への弾みとなるよう、参加者同士が互いに勇ませ合えるものになりたいと考えています。

この地に道を繋いで下さった先人のご苦勞を偲び、感謝しながら、先々へ繋がるよう、お互いに年祭活動や支部の御用に励んで参りたいと存じます。何卒お力添えをお願い申し上げます。

災害救援ひのきしん隊教区訓練



災害救援ひのきしん隊山形教区隊では、8月30日から31日まで、教務支庁を宿営地に、1泊2日の日程で教区訓練を実施しました。今回の訓練では、昨年中止となった北海道・東北ブロック訓練の活動予定地であった舞鶴山公園の遊歩道整備を中心に、同じく昨年、山形県豪雨災害に出動した実績を踏まえ、有事の出動に即した訓練内容を設定しました。

訓練初日の30日は、隊員ら26名が教務支庁に集合。結隊式では災救援本部・真庭高教主事より労いの言葉を頂き、続いて、天童市役所建設部建設課公園係長・鈴木裕太氏よりご挨拶を頂きました。その後のオリエンテーションで作業内容などの説明を行い、早速午前中から訓練現場に向かい、午後からの作業の段取りを行いました。

昼食をはさんで、午後から本格的に作業に取り掛かり、隊員を2班に分け、腐食した遊歩道の手すり支柱の交換、遊歩道の通行に支障を来す倒木の撤去、生い茂った雑草の刈り取



りなどの作業を行いました。
作業終了後は入浴、夕礼に続いて、真庭主事を囲み懇親会を行い、情報交換と同時に、親睦を深めました。

2 日目は、くぼんだ遊歩道に碎石を補充し、路面を平らに均す作業を行い、前日と合わせ計 3 本の遊歩道整備を無事に完了しました。作業終了後は解散式を行い、真庭主事より講評と山形教区災救隊の今後に向けて、激励の言葉を頂きました。

昨年の戸沢村出動において蓄積したノウハウを再確認し、教祖百四十年祭の年祭活動に相応しく、一手一つに勤めることが出来た教区訓練でした。今後も訓練時だけに限らず、平時からお互い声を掛け合い、たすけ合い、心を通じ合わせていけるよう連携して行きたいと思っています。

報告者 災救隊長 佐々幸雄



学生層育成者講習会

教区学生担当委員会（松本真委員長 以下、学担）では 7 月 2 日、教務支庁にて「学生層育成講習会」を開催。教区役職者や各支部学担委員ら 20 名が受講しました。中森芳郎教区長の挨拶の後、講師としてご出向頂いた春野三千彦・本部学担委員が講話を行い、ご自身の学生時代をふり返りながら、学生会活動に積極的に関わることで、信仰に対して前向きな思いを持てるようになったこと、また、同年代の友人と共に活動に取り組むことで、連帯感を味わいながらお道の教えに触れる機会を持てたことなどを話されました。続く質疑応答でも、学生の気持ちに寄り添った活動の進め方、また学生が抱える様々な疑問や悩みに対する助言の仕方のヒントなど、多岐にわたる質問に丁寧にお答え頂きました。



併せて、来年 3 月 28 日開催の「教祖百四十年祭 学生おぢばがえり大会」について、「道の学生が教会につながり、優しい心になって、優しさの連鎖を作る。そして、その心を持ち寄って、みんなでつくる、優しさで笑顔があふれる大会とする」との大会趣旨を説明し、一人でも多くの参加を呼び掛けられました。

報告者 武田正人
酒田飽海支部担当者



少年会のつどい開催

8 月 10 日、教区少年会（佐藤昭太郎 団長）主催の「少年会のつどい」が開催された。

本年は教区団としては、こどもおどばがえりでの少年ひのきしん隊本部錬成会への参加を見送ったこともあり、少年会員達の夏休みの思い出作りに一役買おうと、担当者が急遽準備を進め、開催に至った。

当日は、管内各地から少年会員 8 名を始め、本部錬成会参加経験者の高校生から 20 歳代までの青年・女子青年層や育成会員など、総勢 24 名が教務支庁に参集。全員で親神様、教祖、祖霊様を参拝した後、少年会員らはアイスブレイクのゲーム、座りづとめのおつとめ練習を行い、「朝起き、正直、働き」をテーマにしたパネルシアターを楽しんだ。一方、青年・女子青年層の若者達は、育成会員と共に昼食の調理や会場の準備に当たった。昼食には、バーベキュー、おにぎりやパスタなどが用意されたほか、スイカやメロンなどの季節の果物もテーブルを飾り、参加者達は食事を楽しみながら近況を伝え合うなど、世代を超えて思い思いの話題に花を咲かせ、交流を深めていた。



教 報

任 命

寒河江分教会（名古屋大・中央西支部）
お 許 し 立教 188 年 8 月 26 日
新任教会長 古 城 道 子
就任奉告祭 11 月 7 日

【訃 報】

後藤 金治氏 宝出分教会二代会長
（名古屋大）が 8 月 15 日出直された。
享年 85 歳。中央支部

教務支庁日誌

7 月

- 1 日 主事会 災救隊例会
- 2 日 教区例会 婦人会例会
- 学生層育成者講習会
- 6 日 中央支部例会
- 10 日 みちのだい育み塾勉強会
- 20 日 女子青年例会